

沖縄病院で始まった大腸の新しい検査について

まず、イントロとして、前回この番組に出させていただいた時に沖縄県の大腸がんについて説明したことを簡単におさらいさせていただきます。この10年間、沖縄県の大腸がん死亡率は青森県と1、2位を争うぐらいずっと高いということです、そして大腸がんは50-60歳から増加してくることをお知らせしました。また大腸がん検診の便検査を受けることも重要ですが、小さい癌は便検査では引っかからないことがあります腹部症状や貧血があれば、一度大腸カメラを受けた方がいいですよ、ということをお伝えしました。特に女性で大腸カメラはなんだか恥ずかしいと思われる方は沖縄病院では女性のベテラン内視鏡医がいますので指名できますよ、ということなどをお伝えしました。

大腸カメラはどうしても苦しそうなイメージがありますが、

ベテラン医師による大腸カメラは実際は苦しいことは少ないのですが、残念ながらおなかの手術経験のある方では、大腸がおなかの壁にくっついてしまっていて、大腸カメラの挿入が難しくなり時間がかかることがあります。また経験の浅い医師による大腸カメラが苦しいことがあるのは否めません。大腸カメラで苦しい思いをした方がその経験を周囲の人に伝えることもあるので、大腸カメラが苦しいという噂が耐えません。いろいろなおなかの症状がしばらく続いていて自分の大腸のことが気になるけど、なんだか怖くてなかなか大腸カメラまでは踏み切れない場合があると思います。そういう方のために、今回、比較的楽な大腸検査である『大腸CT』という新しい検査をご紹介します。沖縄病院でも行なっています。イントロが長くなりすみません。

『大腸CT』ということですが、CTとはどういう意味ですか。

CTというのはコンピューターで体の断面を見るレントゲン写真です。何らかの理由で1度はCTを経験した方が多いとは思いますが、大きなドーナツ状の機械の中に寝た状態で入って行って体の輪切りのレントゲン写真をすばやく連続して何枚もとるやつです。『大腸CT』は大体これと同じやりかたで大腸カメラのような画像が得られるCT検査のことです。大腸カメラのように大腸の中をカメラが進んでいく画像もとれるし、大腸の全体像も見られるし、大腸粘膜をサンマの開きのようにして詳細に観察できます。

大腸カメラとどこがちがうのですか

大腸カメラはクネクネ曲がる1cmぐらいの黒くて長い棒のようなカメラを肛門から1mぐらいゆっくり奥まで入れて行って内部を観察して帰ってくるも

ので、大腸の中に便の固まりがあると観察できません。ですから大腸カメラの前に通常は2000cc ぐらいの液体の下剤を飲んで10回ぐらいトイレにいった大腸の中を完全に空っぽにしておく必要があります。これが結構きつと言われる方が多いです。ちなみに当院では比較的味のいい下剤を2回に分けて飲んでもらっています。

『大腸CT』では、下剤内服は多量ではなく少量だけでよく、ある程度便が出れば、あとは便が腸の中に残っていてもかまいません。そのまま肛門から短い管で二酸化炭素をゆっくり入れていって大腸を膨らませてCTをとれば腸の様子が十分に見える写真を作ることができます。15分から20分ぐらいで終わります。

便が残っていても構わないとはどういうことですか。

『大腸CT』では検査前の3度の食事の後に、胃の検査でおなじみのバリウムを少し飲むことになっています。バリウムはレントゲンで真っ白に写る液体です。これを食後に30cc ぐらいずつ飲むと、食べた物とバリウムがドロドロに混ざった状態になり、これが腸の中を進んで大腸の中に入るとバリウムが混ざり込んだ便になります。このバリウム入りの便はレントゲンでは真っ白に写ります。大腸の中にバリウム入りの便が残っていても、コンピューターですべての真っ白に写った便を消せるので中が空っぽの大腸粘膜を観察できるわけです。そこにポリープがあれば便に邪魔されることなしに見つけることができるわけです。すこしややこしいでしょうか。

大腸カメラと同じぐらいよく見えるんですか。

『大腸CT』では大腸カメラほどは詳しくは見えませんが、5ミリ以上のポリープを見つけ出す能力は十分にあります。極論しますとポリープは5ミリ以上の大きさのポリープが発見できれば十分なんです。なぜかといいますと大腸ポリープは5ミリ未満の小さなものはほとんど良性にとどまっているが、5ミリ以上の大きさに育ってくるとその中から癌細胞が出始めるからです。

また『大腸CT』にはもう一つ大きなメリットがあります。『大腸CT』をとるときはお腹全体のCTを必然的にとることになるので、大腸だけでなく、肝臓、膵臓、胆嚢、腎臓、腹部リンパ節などの情報が得られます。通常の間ドックのエコーでは膵臓などが十分に見えませんが、大きなメリットとなります。

大腸カメラはいらなくなっていくのですか。

そうではありません。『大腸CT』はあくまで検査だけの意味しかないので、運

悪く『大腸 CT』で5ミリ以上のポリープが疑われたら、絶対に大腸カメラをして、そのポリープを見つけて切除する必要があります。切除は大腸カメラでできます。

どっちがおすすめでしょうか

どうしても恐がりのひとは『大腸 CT』からまずやってみたらいいと思います。そんなに恐がりでない人は、一度大腸カメラをして、くまなく観察してから、その後は定期的に『大腸 CT』をしていくというのもおすすめです。